

新基地建設反対名護共同センターニュース

“臨時制限区域” フロート設置に海上抗議



マイクで抗議する仲本興真船長

防衛局はいま、“臨時制限区域”の境界線を示すフロートの設置を進めています。ヘリ基地反対協は、これに対し海上からの抗議活動を連日展開中です。9日はカヌー14艇、抗議船3隻を繰り出し抗議しました。

仲本興真平和丸船長は海上保安庁の職員に、「県民の民意に逆らい、海を破壊する違法な仕事に手を貸すのが君たちの仕事ではない。防衛局の下請けではなく中立の立場で海を守る仕事に戻ってほしい」とマイクで訴えました。

「恥を知らない安倍政権」大義は県民の側に
「工事再開許さない」“執行停止”後初の大行動

大雨の中ゲート前 1000人超が結集

緊急シンポジウム

「埋め立て承認をめぐる闘いの現段階と展望」

- 日時・11月16日(金)
Pm6:30 開場 Pm7:00 開会
- 会場・琉球新報ホール
(入場無料)
- 主催・辺野古訴訟支援研究会
- 後援・オール沖縄会議
- 協力・辺野古基金

〈コーディネーター〉

徳田博人琉球大学教授

〈パネルディスカッション〉

紙野健二名古屋大学名誉教授

白藤博行専修大学法学部教授

オール沖縄会議は3日、大雨の中辺野古ゲート前で1000人超の参加で新基地建設の「工事再開は許さない」と、県民大行動を展開しました。

稲嶺進共同代表(前名護市長)は「国は公人と私人を使い分けて恥知らずなことをしている。絶対に負けずひるまず、しなやかに最後までチムグクルを一つにして頑張ろう」と訴えました。

高良鉄美共同代表は、「オール沖縄の運動を全国に広げて安倍政権を倒そう」と訴えました。

赤嶺政賢衆院議員は、「昨日国会質問で、辺野古新基地問題で安倍政権を徹底追及した。知事選や那覇市長選などで示された沖縄の民意を踏みにじることは絶対に許せない。政府がどんな強行姿勢をとっても大義と道理は私たちにあり」と強調しました。

山川仁豊見城新市長が「工事再開は悔しいが、ぶれずにデニー知事を支えていきたい」と述べ、大きな拍手が起きました。城間幹子那覇市長がメッセージを寄せました。



本部港(塩川)使用 3月以降

琉球新報は8日付けで「防衛局が辺野古の土砂埋め立て土砂の搬出場所に予定していた本部港塩川の岸壁が台風で破損した件で、管理者の県は修復工事から復旧までに約3か月かかると見込んでいることがわかった。防衛局が港を使用できるのは早くとも来年3月以降になる見通しで、本格的な土砂投入が先送りされる可能性が高まっている」と報道しました。

防衛局が仲井真元知事から埋め立て承認を受ける際の願書には、本部地区と国頭地区から埋め立て土砂を海上搬送するとしており、国頭は大型船の接岸に適さないとされ、実質的に使えるのは本部港塩川地区だけです。辺野古沖までの土砂搬送は全て海上経由と明記しており、県は「陸上運搬に切り替えるには改めて変更承認を受ける必要がある」と強調しています。デニー知事がこれを認めるはずはありません。政府・防衛局は、活断層や軟弱地盤問題に加え、土砂搬送でも新たな難題を抱えました。



台風で大破している塩川港の岸壁 (7日)